

# 持続可能な開発目標（SDGs）推進本部 第14回会合 総理御発言

- 本年はSDGs達成に向けた中間年ですが、その達成に向けた進捗には大幅な遅れが生じています。
- こうした中で、今、改めて、誰一人取り残さないというSDGsの原点に立ち返り、「人間の尊厳」が守られる世界を実現するべく、我が国を含む国際社会全体で、SDGs達成に向けた努力を加速していく必要があります。
- こうした考えの下、5月のG7広島サミットでは、SDGs達成に向けたG7の決意を再確認し、また、9月にニューヨークで開催されたSDGサミットにおいても、国際社会のSDGs達成に向けた取組を力強く牽引していくとの決意を、私から述べたところです。
- こうした国内外の情勢を踏まえ、本日、SDGs推進の中長期的な国家戦略である、SDGs実施指針を2019年以来、4年ぶりに改定しました。
- 本指針では、「新しい資本主義」の下、「人への投資」やGX・DXの推進を通じて、持続可能な経済・社会システムを構築するという決意を示しております。

- また、「誰一人取り残さない」包摂社会を実現することも重要です。SDGsを推進する上で、人権の尊重とジェンダー平等が全ての目標において横断的に実現されなければなりません。
- 新しい実施指針の下でも、引き続き、国内外の全てのステークホルダーとの連携・協働を強化していきます。
- 関係閣僚におかれては、本指針を着実に履行し、国内外での取組を力強く推進していくよう、よろしく申し上げます。私自身、来年以降もしっかりリーダーシップを発揮していきます。

(了)